

マイブンだより

平成24年6月18日 第2号

発行 都城市教育委員会事務局

文化財課

○ その後の明道小学校出前授業・体験学習会

出前授業・体験学習会は縄文時代から弥生時代、古墳時代と続きます。この中に、石器使用体験と勾玉づくりを挟みます。右は前号でお知らせした縄文人のアップ写真で、背中に矢を背負っています。この衣装は、麻袋を加工して作りました。本来、男性用と女性用の区別はありませんが、上下2ピースとワンピースの2種類作ってみました。これはワンピースです。下の写真は、麻袋を切ったり、縫ったり、端を止めたりして縄文服を作っているところです。こ



の縄文服は、3回目の授業で子どもたちに着てもらうものです。

2回目の授業は、職員2人が縄文服を身につけ、土器と石器の説明、落とし穴や弓で動物の狩りをしてきたこと、炉穴で肉の燻製を作り、石を焼いて料理していたことなどを、パネルや模型、プロジェクターを使

って視覚的に説明しました。

そして、縄文服に劣らぬパワーアップした教材が、竪穴住居の実物大モデル。時間がなくて屋根を葺く間がなく、雨が心配ですが、壁を作ってしまうと中の様子を見ることができませんので骨組みと壁の一部になりました。中では、おとうさんが火起こし器(まいぎり)で火起こしをしています。



この後、2組に分かれてそれぞれ希望者に火起こしの体験をしてもらいました。体育館



の中なので、実際に火を起こすわけにはいきません。それでも、子どもたちは火起こしの難しさを楽しんだようでした。背中に背負っていた弓の先についている矢じりを見て、本当に切れるのと聞いてきた子どももいて、疑問と興味を持ってもらえたかなとうれしくなります。

舞台の下では、縄文土器の破片や復元した土器と石器を展示し、実際に触ってもらいました。土掘りに用いたかもしれない石斧（せきふ）や矢じりなど、手に取って一生懸命観察していました。先ほど質問があった石が切れるかどうかは、3回目の石器使用体験で試すことになります。



今回使用した教材は、大がかりで大きかったため、担当者にとって運搬、設営は大変だったようです。縄文時代は、この2回目と次の3回目のシリーズです。先ほど、屋根のなかった竪穴住居は一部屋根ができての再登場となります。それが下の写真です。むき出しの柱も木目調の壁紙を纏って、それらしくなっています。みんな気づいてくれるかな？ 写真では分かりづらいですが、実は住居の中央にはかまどがあり、縄文土器が置いてあるのです。家の中で、

煮炊きしていたことがわかります。そして、住居の建て方、構造、雨が家の中に入ってこない工夫などを説明しました。



その後、文化財課で作った縄文服を着用してもらい、石器を使ったストラップづくり体験です。石器づくりも体験してもらいたいのですが、時間がないのと、石器に使う黒曜石はガラス質でカミ



ソリみたいに切れ味が鋭いのです。このため、担当があらかじめたくさん作っておきました。配られた本革を石器で注意し

ながら切って、紐を通して作り上げていきました。みんな楽しそうで、これまでの様子は、新聞社やテレビ局の取材を受けて、それぞれ掲載、放映されました。



これからは、あと3回弥生時代と古墳時代を学習します。また、山田小学校と山之口小学校でも出前授業を行います。こちらも、次号以下に掲載しますので、お楽しみに。